教育・研究等業績一覧

履歴				
フリガナ	タカシマ　　ヒロミ	性別	生年	１９７６年
氏名	高島　　裕美	女		
所属	保育学科	身分	助教	

学歴

年月	事項
2002 年 3 月	北海道大学　教育学部　教育学科　卒業
2002 年 4 月	北海道大学大学院　教育学研究科（教育学専攻）修士課程　入学
2005 年 3 月	北海道大学大学院　教育学研究科（教育学専攻）修士課程　修了　教育学修士
2005 年 4 月	北海道大学大学院　教育学研究科（教育学専攻）博士後期課程　入学
2014 年 3 月	北海道大学大学院　教育学研究科（教育学専攻）博士後期課程　単位取得退学

職歴

年月	事項
2009 年 5 月	北海道情報大学　通信教育部　レポート添削員　「教育社会学」(2013 年 2 月任期満了)
2012 年 4 月	札幌社会福祉専門学校　保育福祉科　非常勤講師　「社会学」(2013 年 2 月任期満了)
2013 年 4 月	北海道情報大学　通信教育部　教職課程　非常勤講師　「教育制度論」(現在に至る)
2013 年 4 月	近畿大学豊岡短期大学　通信教育部　非常勤講師　「教育方法論」(2014 年 3 月任期満了)
2013 年 4 月	札幌社会福祉専門学校　保育福祉科・介護福祉科　非常勤講師　「教育方法論」「社会学概論」(2014 年 2 月任期満了)
2013 年 9 月	北星学園大学　教職課程　非常勤講師　「教育社会学」(2014 年 3 月任期満了)
2014 年 4 月	北海道情報大学　教職課程　非常勤講師　「教育制度論」(現在に至る)
2014 年 4 月	拓殖大学北海道短期大学　保育学科　助教　(現在に至る)

教育業績

1　担当授業科目（2015 年度）

科目名	出講場所	期別	曜日	時限	備考
教育原理	202	前期	金	1	
保育原理	201	前期	金	2	
保育者論	202	後期	金	2	
教育課程総論	101	通年	水／金	4／4	
文章表現法	302・303・301	通年	月／木	1／4	
基礎科目入門	203	通年	火	2	
保育実践演習	203	通年	火	3	
総合芸術・総合芸術表現		後期	月・金	5	
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（1 年）	101	通年	水	1	
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（2 年）	101	通年	水	3／4	
保育実習指導Ⅱ・Ⅲ（1 年）	101	後期	火	4	
保育実習指導Ⅱ・Ⅲ（2 年）	101	前期	月	5	

2　現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価 （記述式：900 字以内）	現在担当しているいずれの授業も、保育者としての資質・力量を形作る要素のひとつである、保育・教育に関する知識や技能を、確実に身に付けるということを目標としている。その際、その知識・技能の制度的・歴史的・理論的な背景を併せて学習することにより、学生一人ひとりの中に自分なりの教育観・保育観が打ち立てられることを目指している。 しかし、そうした知識や技能をただただ習得するだけでは不十分である。なぜなら、保育・幼児教育の現場においては、子どもたちの突発的な行動に臨機応変に対応する力量も、同時に必要とされるからである。そこで本授業では、知識の定着に加えて、それとは正反対に、正解のない議論をし合うこと、学生オリジナルのアイディアを出し合い発表することで、学生が自分なりの考えを深め蓄積してゆくことも意識して展開した。 さらに、近年、子ども・子育て家庭、保育・幼児教育現場をめぐるさまざまな社会問題が起きているが、学生らは将来、それらの問題の解決の一助を担うことになる。そこで本授業では、こうした社会問題を授業の教材として多数取り上げた。 平成 27 年度の自己評価としては、上記のような教育目標をおおむね達成できたと考えている。知識や技能の定着という点では、重要事項の理解はもとより、特に学生の文書作成に関する技能が高まったと評価できる。幼稚園・保育所で使用される指導計画の立案作業や、論述式試験（小レポート含む）の実施が教育効果を発揮したと考えられる。また、現代の子どもをめぐる社会問題の理解という点でも、学生にとって身近な題材を授業の中で積極的に取り上げ、学生同士での議論の機会を設けたことによって、学生の興味関心を引き出し、課題解決能力が身に付いたと評価できる。
3　学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み （記述式：900 字以内）	昨年度の授業評価に対応した改善点として、担当する各授業に対し、毎回の学習内容つまり「この授業では何を学んだのか」という授業のポイントを、口頭でも配布プリント上でも示すこととした。加えて、授業の初めに、前回の学習内容を振り返るための時間を確保した。それにより、授業のながれやねらい、学習のポイントが学生によりはっきりと伝わったと評価できる。 また昨年度に引き続き、現在担当している授業では、授業後に「感想シート」を記入・提出させた。提出実績や記述内容は一切学習評価に反映しないため、学生は感じたことや意見、質問を自由に述べることができる場のひとつになっている。こうして寄せられたものは、次回以降の授業で紹介し、復習や議論の導入に利用している。「感想シート」は、学生の意見をできる限り授業に反映させようという意図のもとに導入しているのだが、授業内で個々の意見を取り上げることで、学生の授業への参加意識が高まっているように感じられる。授業アンケートにおいても、学生による評価は良好なものだった。一方で、学生の作成した文書をたとえ授業内だとはいえ、授業者が自由に公開し評論するということに対し、疑義が寄せられた。この点については、来年度以降、授業開始時に学生にあらかじめ公開についての許可を得る等、対策を講じる予定である。
4　教科書、教材の作成状況 （記述式：300 字以内）	現在担当しているすべての授業で、特定の教科書は使用せず、学習用プリントを作成・配布して授業を展開している。 プリントの形式は、重要語句を学習する単元においてはドリル（穴埋め）方式、議論によって学生の考えを深めるような単元においては、上記「感想シート」を活用し学生の回答や考えを記載し議論の進行の一助となるような方式をとるなど、学習内容によって変化を持たせている。

5　学生の指導（課外活動・厚生補導等） （主要 10 件以内）	2014 年 5 月～現在	吹奏楽同好会（2015 年 4 月より吹奏楽部）顧問
	2014 年 12 月	深川市子育て支援センター事業「わくわく広場」（於・深川保育園）の見学・担当者に対するききとり調査の実施（ゼミ生 5 名を引率）
	2015 年 1 月	海外短期研修・事前研修の実施（農学ビジネス学科 1 年生 2 名）
	2015 年 9 月	「障がい者支援施設ないえ」学園祭にて依頼演奏（吹奏楽部員 12 名を引率）
	2015 年 12 月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科・保育学科学生を対象としたアンケート調査「短大生の結婚・出産・子育てに関する意識調査」の実施（ゼミ生 10 名とともに実施）
6　その他 （主要５件以内）		

研　究　業　績

1　研究分野・活動 （記述式：350 字以内）	近年、教員の業務の多忙化とそれにともなう精神的消耗・早期退職が社会問題となっている。その一方で、教員は現在推し進められている教育改革の担い手として、またそのターゲットとして重要な立場に置かれている。こうした状況のもと、教員が日々どのような困難を抱えているのか、またそれを解決しながらいかにして教育活動を行っているのか、それに対する実証的な研究はそれほど多くはない。 本研究では、教員文化論をベースに、教員集団をジェンダーや世代などをもとに多層的に捉え、一枚岩ではとらえきれない教職の困難性を実証的に明らかにし、困難の乗り越えの展望を提示することを目的としている。 研究の手法として、アンケート調査とインタビュー調査とを併せて実施することで、教員文化の全体像を把握すると同時に、その内部をより詳細に記述することが可能となっている。これにより、立体的な実像に迫ることを目指している。

2　研究課題 （今後の展開・可能性を含む） （記述式：350 字以内）	「北海道内における教育専門職（保育士・教員）のキャリア形成に関する社会学的考察」 上記で述べたように、教職の多忙化と教員の精神的消耗という問題は、若手教員の職場への定着のしづらさ、ベテラン教員の早期退職者の増加といった現実と結びついている。このことは、世代間の知恵や技能の伝達が妨げられるという点で、教員の生涯を通じてのキャリア展開にも大きな影響を与えることとなる。教員が、その生涯をもって子どもや地域と寄り添いながら働き続けることのできる環境・条件を整備することが急務と考える。 今後の展望として、すでに調査済みの全道女性教員を対象としたアンケート・インタビューのデータの分析を継続し、学会発表ないしは論文投稿という形で公表したいと考えている。また、ここ深川を中心として空知地方を新たなフィールドに加え、地域間の違いに着目して比較調査を展開していく予定である。
3　研究助成等 （主要５件程度）	(1)文部科学省科学研究費 （課題番号　15H03490）基盤研究(B)「グローバリゼーション下の教師　―生活と意識・専門職性の変容―」（研究代表者：油布 佐和子、研究期間：平成 27 年度～29 年度）研究分担者 (2)学内 なし (3)学外 なし
4　資格・特許等 （主要３件以内）	高等学校教諭　第一種普通免許状（地理歴史）

著書、学術論文、作品等の名称 （主要 15 件以内）	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要　約
（著書）				
実践事例　一歩進んだ「学校支援」をめざして　――東京・三鷹市 NPO 法人夢育支援ネットワークの SA（スタディ・アドバイザー）活動の取り組み	共著	2008 年 3 月	新教育課題研究会編『新教育課題の要点と実践』追録第 50 号～51 号,「第Ⅱ編　学校経営上の諸課題・学校支援ボランティア」	東京都三鷹市に 2003 年に設立された「NPO 法人夢育（むいく）支援ネットワーク」の学習支援ボランティアのコーディネート事業のシステムやノウハウを紹介したテキストである。その最大の特徴は、特別な知識や専門性を持たない地域住民や児童生徒の保護者も学習支援に関わることができる SA（スタディ・アドバイザー）の取り組みにある。 こうした学習支援のシステムは、地域住民が、学校を介して自分たちの住む地域に対して主体的に関わる契機となると同時に、学校にとっても、地域との連携によって、授業実践のさらなる充実が期待できる。 このシステムは、現在そのニーズが高まっている地域住民・保護者と学校・教員の協働・連携に有意義なアイディアを示すものといえる。
（学術論文）				
公教育再編過程下の「学校・教員マネジメント」に関する議論の変遷について――1990 年以降の中教審答申を中心に――	単著	2009 年 6 月	北海道大学大学院教育学研究院『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第 107 号	本論文では、1990 年代以降の教育改革を、その推進主体に着目して時系列的に追い、教育政策の変遷を整理することを課題とした。 その結果、1980 年代後半の臨教審答申が「学校のスリム化」と、カリキュラム改革（いわゆる「ゆとり教育」）とを強力に牽引しただけでなく、教員個人の力量形成の推進と教員集団の再編を促す学校組織改革といった教員制度にも影響を与えているということが改めて浮き彫りになった。

小学校女性教員の仕事と生活をめぐる困難とその「乗り越え」　――教職アイデンティティに関する議論をてがかりに――	単著	2010 年 6 月	北海道大学大学院教育学研究院『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第 112 号	本論文では、女性教員の仕事上の困難の実態と構造を把握することを課題とした。 アンケート・インタビュー調査の分析の結果として、教員が感じている「仕事の悩み」とは、児童・生徒の教育活動からの逸脱行動の増加を背景として、そうした状況への対応が、教員が理想とする豊かな授業実践や教材研究の実現を阻んでいることが、“自分がしたいと考える教育活動ができない”という悩みへとつながっていることが明らかになった。
〈進路指導――学習指導・生徒指導〉の下方スパイラル的困難化に関する予備的考察	共著	2014 年 3 月	北海道情報大学『北海道情報大学紀要』第 25 巻第 2 号	今日、「学校から企業への移行」が不安定化することにともなって、とりわけ高校では、進路指導が困難化すると同時に重要視されている。 本稿は 1960 年代以降の社会情勢を追いながら、進路指導の困難は、学習指導・生徒指導の困難性と連動しているという仮説を立ち上げ、検討したものである。
教員の職場における「ジェンダー・バイアス」　――女性教員の職務配置のあり方に着目して――	単著	2014 年 6 月	北海道社会学会『現代社会学研究』第 27 号	本論文では、教職の職務配置の論理に着目し、ジェンダー・バイアスが生成・維持される仕組みを、教員集団に焦点化することで明らかにしようとした。 その結果、職務配置にジェンダー・バイアスが認められるにもかかわらず、教員らは、自身の職場を「ジェンダー・バイアスのない職場」と評価していることが明らかになった。こうした実態と認識のずれを生じさせるのは、職場のジェンダー・バイアスは、家庭責任を持った女性教員に対する「配慮」の結果として理解されていたことに由来するということが明らかになった。
（学会等発表）				
高等教育における学生指導の現状	単独	2015 年 11 月	2015 年北海道合同教育研究全道集会（第 19 分科会）	本発表は、本学で発表者が日々行っている学生指導における工夫や困難を題材に、現在の高等教育における学生指導の課題を明確化しつつ、その解決方法について考察したものである。 同時に、こうした学生指導の方策の変容は、教員の労働における質・量的変化をもたらすことが指摘できる。教員の多忙という問題の、解決のしにくさを表しているといえる。
保育者養成校におけるゼミナール活動実践を通じた学生の学びの展開と課題 ――子育てという営みを再考する試み――	単独	2016 年 3 月	北海道教育学会 第 60 回研究発表大会	本発表では、本学で発表者が今年度実施したゼミ活動を題材に、学生の学習活動の深化と展開について考察したものである。 2015 年度より本格化した地域子育て支援事業についての学習、実際の担い手に対するインタビュー調査を通じて、学生が子どもや子育てについて自身の持つ既成の概念を捨象し、客観化する過程を示した。

研究業績（過去３カ年分）				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
0	2	6	0	無	有

学　内　運　営　業　績

１　役職、各種委員会等 （主要 10 件程度）	2014 年 4 月～2015 年 3 月	学生委員会　委員
	2014 年 4 月～2015 年 3 月	地域・国際交流委員会　委員

学　外　活　動　業　績		
1　本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通しての活動 （主要 10 件程度）	2006 年 4 月～2008 年 3 月	NPO 法人夢育支援ネットワーク（東京都・三鷹市）　運営事務局スタッフ
	2009 年 4 月～現在	札幌市立幌北小学校スクールバンド同好会　指導スタッフ
	2014 年 11 月	北海道札幌月寒高校　大学模擬授業（教育学）
	2015 年 4 月～現在	せいとく介護こども福祉専門学校　教育課程編成委員会委員
	2015 年 11 月	北海道札幌月寒高校　大学模擬授業（教育学）
2　学会・学術団体等の活動 （主要 10 件程度）	日本教師教育学会　会員	
	日本教育社会学会　会員	
	日本教育学会　会員	
	日本労働社会学会　会員	
	北海道教育学会　会員	
	北海道社会学会　会員	
	女性労働問題研究会　会員	
	北海道ジェンダー研究会　会員	